

# 息切れや動悸「心アミロイドーシス」 診断難しい心臓病に光

九州大病院別府病院の治療・研究

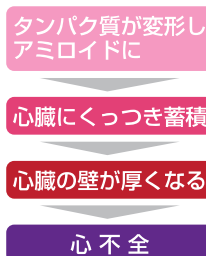
## からだを 読み解く



循環器内科助教  
甲木雅人

最近、「息切れが前より強くなった」「動悸が気になる」といった症状を年齢のせいにしていませんか。実は、その背景に「心アミロイドーシス」という聞き慣れない病気が隠れていることがあります。高齢者を中心に増えている心臓の病気で、近年ようやく診断や治療の道が開けてきました。

アミロイドの蓄積が心不全の原因に



### 心アミロイドーシスを疑うべき“サイン”

#### 症状

- 動いたときの息切れや動悸
- 疲れやすさやむくみ



#### 所見・診断

- 心臓の壁が厚い(心肥大)
- 心房細動(不整脈)
- 大動脈弁狭窄症(弁膜症)
- 両手のしびれや痛み(手根管症候群)
- 慢性の腰痛や足のしびれ(腰部脊柱管狭窄症)



のです。

問題は、この病気が「見逃されやすい」という点です。初期にはあまり症状がないか、息切れや動悸など単なる加齢が原因と思ってしまうような症状が多いからです。そのため、心アミロイドーシスを疑わせる危険なサインを知っておくことが大切です。

例えば、「心房細動」や「大動脈弁狭窄症」といった心臓の病気、また「両手のしびれ(手根管症候群)」や「腰の痛み・足のしびれ(腰部脊柱管狭窄症)」といった整形外科の病気を合併することが多いと分かっています。これらの持病がある方の中には心アミロイドーシスが隠れているかもしれません。

この病気の正体は「アミロイド」という特殊なタンパク質です。本来は体にとって大切なタンパク質が、

加齢や遺伝などが原因で肝臓から作られるトランスサ

イレチンというタンパク質が変形してアミロイドとなり、心臓に沈着し、蓄積していきます。この病気は長らく「診断が難しい」「治療法がない」と考えられてきました。しかし近年、日本でも病気の進行を抑える薬が使えるようになり、大きく状況が変わりました。治療薬の登場により医療現場で積極的に診断される機会が増えたこ

## 早期発見、何よりも重要

ただし、現在の治療は病気を「治す」のではなく「進行を遅らせる」ことが目的です。一度沈着して硬くなつた心臓の筋肉を元に戻すことは難しいため、いかに早く見つけ治療を開始するかが、その後の生活の質を大きく左右します。つまり、早期診断が何よりも重要な

診断や治療は専門施設で行う必要がありますが、まずは気になる症状をかかりつけの先生に相談してみてください。早期発見・早期治療が、これからの生活を大きく支える力になります。